

郡上農林事務所の普及活動状況 令和6年4月30日現在

今月の重点活動

■就農支援 「郡上トマトの学校」実習始まる

令和6年度の新規就農者研修施設「郡上トマトの学校」の研修が今春入校した1名と2年生1名の計2名体制で始まった。各研修生は4月8日から室内での座学およびほ場実習を開始した。

4月11日には、JA指導員、市営農アドバイザーおよび農業普及課の指導によりセルトレイ苗からポットへの仮植とトンネル被覆を実施した。農業普及課は、研修生からの水やりや温度管理の質問に対し分かりやすく説明し、研修生の技術習得に向けて支援を行った。

また学校では本年から体験コースとして月1～2回の実習を6名対象に開始し、トマト栽培を本格的に志す人材の掘り起こしにも取り組んでいる。

農業普及課では、より充実した研修に向け関係機関と連携の上、研修生への支援を継続する。



【ほ場実習の状況】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■就農支援 新規就農者研修施設の修了式・入校式開催

JAめぐみの新規就農者研修施設の修了式・入校式が4月5日に開催され、研修施設の一つである「郡上トマトの学校」を支援する農業普及課も来賓として出席した。

式では、「郡上トマトの学校」及び「地域振興作物栽培実証ほ場」修了生、各1名から研修の成果と「郡上トマトの学校」入校生1名から研修にあたっての抱負の発表があった。

その後、JAめぐみの山内清久組合長が修了証を手渡し、新規就農への期待を述べられた。

令和6年度は「郡上トマトの学校」への研修生が1名、この学校を修了し夏秋トマトで郡上市に新規就農する方が1名あり、農業普及課では関係機関と連携し支援を行う。



【研修成果を発表する修了生】

■関係機関との連携 郡上営農連絡会議を開催

第1回郡上営農連絡会議を4月17日に開催した。当会議は、市・JA・農業共済・農林事務所（農業振興課、農業普及課）等の関係機関が集まり、郡上地域の農業振興に関連する情報共有と課題解決を目的に開催している。

今回は、新規就農者・スマート農業・農福連携・有機農業等の重点施策を含めて、各機関から新体制の紹介と今年度の事業計画等を説明し、関係機関で情報共有を行った。

今後、農業普及課では、事務局として当会議をほぼ隔月で開催し関係機関との情報共有や連携を図り普及事業を推進していく。



【営農連絡会議の様子】

■就農支援 新規就農者の就農状況を確認

農業普及課は、郡上市と連携して、令和6年4月に白鳥町石徹白地内で就農した新規就農者1名の就農状況を確認した。

既に石徹白地内の農家と交流があり、農地を自分で探して確保するなど、精力的に活動している様子うかがえた。有機栽培・少量多品目・体験農園・6次産業化を予定しており、認定新規就農者になりたいという意思表示があった。

農業普及課では、引き続き郡上市と連携して就農支援していく。



【聞き取り調査の様子】

安心して身近な「郡上の食」づくり

■大麦 収量・品質の向上を目指して

郡上市の南部地域を中心に、土地利用型の法人が、転作作物として大麦を栽培している。収量と品質の向上を図るため、本年産から「ミノリムギ」から「ファイバースノウ」へ全面的に品種の切替えを行い、同時に追肥など施肥体系の見直しを行っている。

また、4月8日に美並町麦作推進協議会が開催され、追肥や防除の時期を協議し、赤かび病に対するドローンを使った防除を4月18日、4月26日の2回することを決めた。

農業普及課では、JAと連携しながら生育調査や品質分析などの調査を行い、品種の切替や追肥の効果を確認しながら、収量・品質の向上に取り組んでいく。



【ドローンによる
防除の様子】

郡上農畜水産物のブランド展開

■夏秋いちご 役員会で新品種試験について検討

高鷲町でいちご部会の役員会が4月15日に開催された。近年の夏季高温による品質及び収量の低下が課題となっており、産地に適した新たな品種の検討が必要となっている。県農業技術センターが選抜した1系統について2年間現地栽培試験を行っており、今年度も試作することが決まった。今年度は組合員全員で試作し、評価をする。

農業普及課では、試験研究機関と連携し、試験の着実な実施をサポートするとともに、栽培技術等の情報提供を通じた高品質安定生産支援を継続して実施する。



【役員会の様子】

■夏だいこん 令和6年作の生産出荷実績向上に向けた研修会を開催

ひるがの高原だいこん生産出荷組合が栽培の始まる前の4月9日に栽培研修会を開催した。研修会では、生産者や関係者ら30名余りが出席し、県外他産地でダイコンの指導実績がある民間コンサルタント会社担当者を講師に招き、当産地における、前年作型での市場クレームをふまえ、事例と原因、そして対策について、講義と質疑を行い、農業普及課とJAはその運営を支援した。

近年、ダイコンは天候不順等の影響から生産が不安定となり、生産者収入の増加、安定化が重要な課題である。農業普及課では品種や資材などと合わせ、環境データなども活用し、収量・品質の高位安定化に向け支援に取り組む。



【研修会の様子】